

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

学位申請者	清水 美紀 【人間発達科学専攻 平成25年度生】	要 旨
論文題目	子育てをめぐる公的領域と私的領域の再編のポリテイクス ―預かり保育に関する意味づけの分析を中心に―	<p>清水美紀氏の学位請求論文の審査は、平成 30 年 6 月 13 日の代議員会において審査委員会の立ち上げが了承され、6 月 15 日に第一回の審査会が開かれた。第一回審査会では、清水氏から論文の概要に関する説明がなされ、審査委員から総評及び問題点の指摘があった。審査委員からは概ね、清水氏の論文における三つの調査分析は、適切な手続きに基づく調査であり、その結果は妥当なものであると判断された。</p> <p>しかし、理論的な枠組みに十分消化しきれていない部分があること、また、公私の領域に関する理解が十分に伝わらないこと、さらに、現在の保育の実情について丁寧にフォローする必要があることなどの指摘を受け、特に、理論枠組みについて再考が必要であるという議論となった。これを受けて、十分に改稿する時間を取ることが必要であるということから、第二回の審査会を 8 月 1 日とすることとなった。</p> <p>第二回審査会では、新たに加筆された公的領域と私的領域に関する理論的な分析の妥当性及び、保育制度に関する理解などが確認された。理論的な整理については、短時間ではあるものの、ハバマスからフェミニズムに至る公的領域と私的領域に関する理論の理解、並びに、変化を論じるに当たってフレイザーの議論を十分に位置付けていることなどが評価された。さらに改稿にあたり、三つの調査から個別に見えてきたマクロレベルとミクロレベルの異なる位相の論点を統合的に分析しうる論点として、責任と遂行というキーワードが導出されたことが強調され、図式化されたことに対して議論がなされた。図式化はチャレンジングな総括ではあるものの、これによって、全体像がクリアになったことは評価されると考えられた。責任と遂行に関しては、このふたつの概念それ自体にまだ複数の要素があることから限定的な分析ではないか、という問題点が指摘されたが、これを残された課題として、最終審査に進むことが承認された。</p> <p>9 月 7 日に公開論文発表会が開催され、最終審査が行われた。発表会においては、要点を明確にしたプレゼンテーションがなされ、質問にも適切な応答がなされた。残された課題については、引き続き新たな研究として分析することが期待されることから、審査会では、博士（社会科学）、Ph.D. in Sociology として可とすることが承認された。</p>
審査委員	(主査) 教授 小玉 亮子	
	教授 浜口 順子	
	教授 杉野 勇	
	教授 耳塚 寛明	
	准教授 刑部 育子	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>㊦. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> </div> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	